

佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集

ISENARABIJYOUSEKI

石 並 城 跡

長野県佐久市大字岩村田石並城跡発掘調査報告書

1992. 3

佐 久 市 教 育 委 員 会

佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集

ISENARABIJYOUSEKI

石 並 城 跡

長野県佐久市大字岩村田石並城跡発掘調査報告書

1992. 3

佐 久 市 教 育 委 員 会

佐久埋蔵文化財調査センター

例　　言

1 本書は、平成 2 年度森泉建設工業株式会社が行う宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2 調査委託者 森泉建設工業株式会社

3 調査受託者 佐久市教育委員会

4 発掘調査所在地籍及び面積

石並城跡（I I J） 佐久市大字岩村田字石並3503外 976m²

5 調査期間

1) 発掘調査（現場） 平成 2 年12月13日～平成 3 年 1 月11日

2) 整理調査（室内） 平成 4 年 1 月 6 日～3月27日

6 事務局及び調査団の構成

（事務局） 佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

平成 2 年度

教　育　長 大井季夫 教育　次長 小池八郎

開発公社局長 須江吉介 課長兼所長 柏澤幸男

管　理　係 桜井牧子（係長）・東城公人・田島清巳（嘱託）・門口美咲（臨時）

埋蔵文化財係 相澤幸男（係長兼務）・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小山岳夫・小林眞寿・羽毛田卓也・翠川泰弘・竹原学・助川朋広

（調査団）

團　長 黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副　團　長 藤沢平治（佐久市文化財審議委員）

調査担当者 高村博文

調査補助員 遠藤しづか・並木ことみ・星野良子・香山優子

協　力　者 甘利亘・星野重一・小林和義・小林永一・柳沢時枝・長岡喜代人・倉沢聰

平成 3 年度

教　育　長 大井季夫 教育　次長 奥原秀雄

開発公社局長 佐々木正泰 課長兼所長 上原正秀

管　理　係 桜井牧子（係長）

埋蔵文化財係 草間芳行（係長）・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小林眞

寿・羽田卓也・竹原学

(調査団)

団長 黒岩忠男(佐久考古学会副会長)

副団長 藤沢平治(佐久市文化財審議委員)

調査担当者 高村博文

調査員 香山優子・小林よしみ

7 本書の編集は高村博文・香山優子が、執筆はすべて高村が行った。

8 本書及び出土遺物等の全資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

9 現地の調査において、円満寺を初め地元の方々にご協力をいただいた。また、陶磁器については長野県埋蔵文化財センター調査研究員市川隆之氏の助言を得た。記して感謝の意を表します。

目 次

例言・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る動機	1
第2節 調査日誌	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
第1節 基本土層及び検出遺構・遺物の概要	2
第2節 城跡関連遺構	3
第3節 壁穴住居址	4
第Ⅲ章 調査のまとめ	17
写真図版	

挿図目次

第1図 石並城跡の位置	1	第9図 第1・2号土坑、ピット実測図	12
第2図 基本土層模式図	2	第10図 H1号住居址実測図	13
第3図 石並城跡発掘区と周辺航空測量図	5	第11図 H2号住居址実測図	14
第4図 遺構全体図	7	第12図 H2号住居址出土土器実測図	14
第5図 第1号掘址実測図	9	第13図 第3号土坑実測図	15
第6図 第2号掘址実測図	10	第14図 第4号土坑実測図	15
第7図 第3号掘址実測図	11	第15図 混入土器実測図	15
第8図 第1号溝状遺構実測図	11		

付表目次

第1表 掘址・溝状遺構一覧表	10	第4表 上坑・ピット一覧表	16
第2表 H2号住居址出土上器観察表	13	第5表 住居址一覧表	16
第3表 混入土器観察表	15		

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機

石並城跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高716～726mを測る。城跡は蛇行しながら南流する湯川の西岸の第2段丘上に北から石並城跡・王城跡・黒岩城跡とほぼ直線的に南北に連なって大井城跡を形成している。大井城跡は佐久市有数の城跡であり、王城跡・黒岩城跡は県の史跡に指定されている。当教育委員会は、この石並城跡をなんとか現状保存することを考え、一度は宅地造成の計画を長野県教育委員会文化課の指導のもとに協議し、開発を思いとどまらせることができたが、再度、森泉建設工業株式会社により開発の計画が持ち上がった。

今回、森泉建設工業株式会社が計画している宅地造成地区は、石並城跡の外郭に当たるものと考えられる。また、当該地は岩村田遺跡群内に含まれていることから弥生時代から平安時代の遺構の存在している可能性も高く、国庫補助金で全面試掘を実施し、遺構の存在が確認されたため森泉建設工業株式会社と保護協議を行い、発掘調査を実施することになった。



第1図 石並城跡の位置 (1:50,000)

第2節 調査日誌

平成2年12月13・14日 国庫補助金により試掘調査を実施し、遺構の存在を確認した。

12月20日～平成3年1月11日　試掘調査の結果を受けて発掘調査を実施する

平成4年1月6日～3月27日 室内にて報告書作成作業を行い全調査を完了する

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 基本土層及び検出遺構・遺物の概要

1) 基本十層

石並城跡が存在する地域は、三貫姫遺跡発掘調査報告書の遺跡の環境で述べたように、佐久市北部にあたり、約13,600年前の第二次外輪山前掛火山の長期にわたる火山活動により形成された第1軽石流（P1）の堆積地域である。東側は、湯川により浸食されてできた、断崖絶壁で河床からの比較差は約30数mもある。

遺構検出の際、表土及び耕作土を取り除くと、この第1軽石流（P1）が存在し、今回の発掘調査により確認された全遺構は、この第1軽石流（P1）直上においてであった。基本的な土層として、H1号住居址北側南面セクションを北部の、第2号堀址西側東西セクションを南部のモデルとして抽出し、第2図に示した。

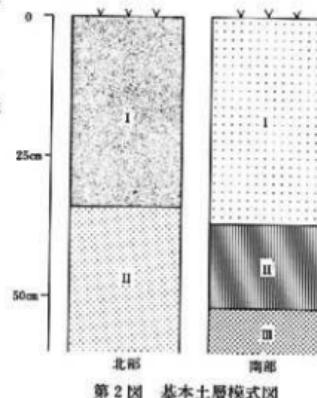
北 部 土層說明

第1層 脳褐色土 (19783/4) 粘性なし, 粗粒土,

第Ⅲ層 にない言語島主(10YRS/4) 日一台層 (P1).

南部 土層說明

第1层 褐色土(10YR4/4) 耕作土。



第Ⅲ層 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 耕作土。

第Ⅱ層 線色土(7.5YR7/6) ローム層 (P 1)。

2) 検出遺構・遺物の概要

検出遺構

城跡関連遺構	堀址 3 条、溝状遺構 1 条、土坑 4 基?、ピット 13 基?
堅穴住居址	弥生時代? (H 1 号住居址)、古墳時代後期 (H 2 号住居址)
その他	現代の室 2 基

出土遺物

上器	弥生土器、土師器、近世・近代陶磁器
----	-------------------

第2節 城跡関連遺構

1) 堀址

堀は今回の調査で 3 条検出されている。また、発掘区の東側縁辺部には、石並城の本体を区画する南北方向に伸びる大きな堀が走っている。第 3 号堀址は、この大きな堀より分かれて、やはり南北方向に、並走して構築されており、第 2 号堀址も、接合部分は調査区外のため確認できなかつたが、この本体を区画する大堀より分かれて、南北方向から東西方向へ変曲しながら構築されていることが判明した。第 1 号堀址は発掘区の西端で検出され、人掘と平行して南北方向に構築されている。断面の十層観察では、いずれも自然堆積的であり、堀底面付近に、砂礫層がみられ、第 1 表にあるように、どの堀址も北方向から南方向に向かって低く傾斜しており、水が北から南に向かって相当量流れたものと判断できる。

出土遺物は、混入遺物として、弥生土器・土師器等が出土しており、陶磁器類は近世以降の瀬戸・美濃系陶磁器が出土しているものの堀址の構築年代を推定する資料かどうか判然としない。

2) 溝状遺構

第 1 号溝状遺構は第 3 号堀址の約 5 m 西側を並走し、北から南に向かって溝底面が傾斜しており、第 2 号堀址にぶつかっている。第 2 号土坑と重複関係にあり、第 2 号土坑により破壊されている。

土層断面の観察により、西側にやや浅い溝ち込みがみられ、東側は深く V 字形に落ち込んでお

り、南側で検出された溝幅は、南側部分がより深く耕作土で擾乱されていたため、西側部の浅い、掘り込みは、破壊されていると解釈できる。

出土遺物は、堀址と同様、混入遺物として弥生土器・土師器等があり、陶磁器は近世以降の瀬戸・美濃系陶磁器が出土している。

断面形状・平面形態などから本溝状遺構は、第3号堀址と関連が推測でき、石並塀跡外郭部の関係施設と考えられる。

3) 土坑及びピット

本試跡からは、土坑4基とピット13基が検出されているが、城跡との関連は不明な部分が多く（後世の擾乱も含まれているものと考えられる）基礎資料として実測図と一覧表を提示しておくにとどめる。

第3節 堅穴住居址

1) H 1号住居址

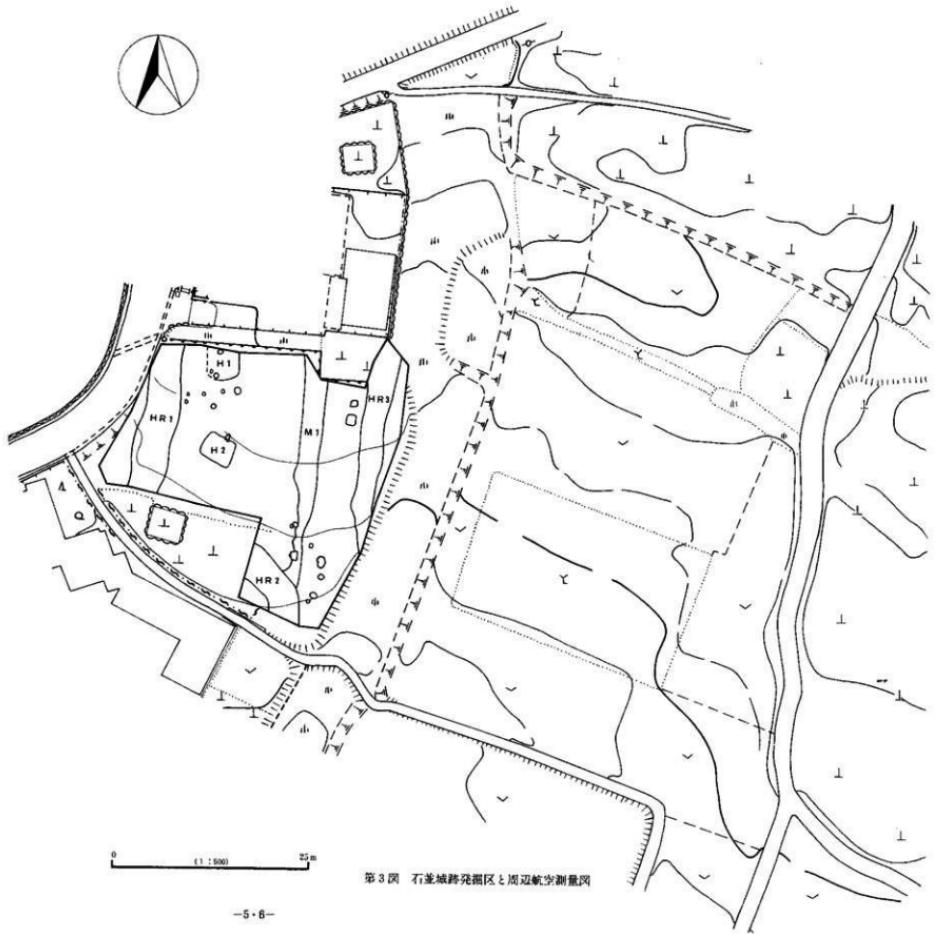
本住居址は、G・H-6・7グリッド内より検出された。北側が調査区外、西側は耕作上に削平されていて全容は検出されず、東壁と南壁半分ほどが残存していたにすぎない。ピットは2基検出され、P₁は主柱穴とみられ、P₂は入口部施設に関連した柱穴かもしれない。床面は東壁付近に貼床の固い部分が存在した。

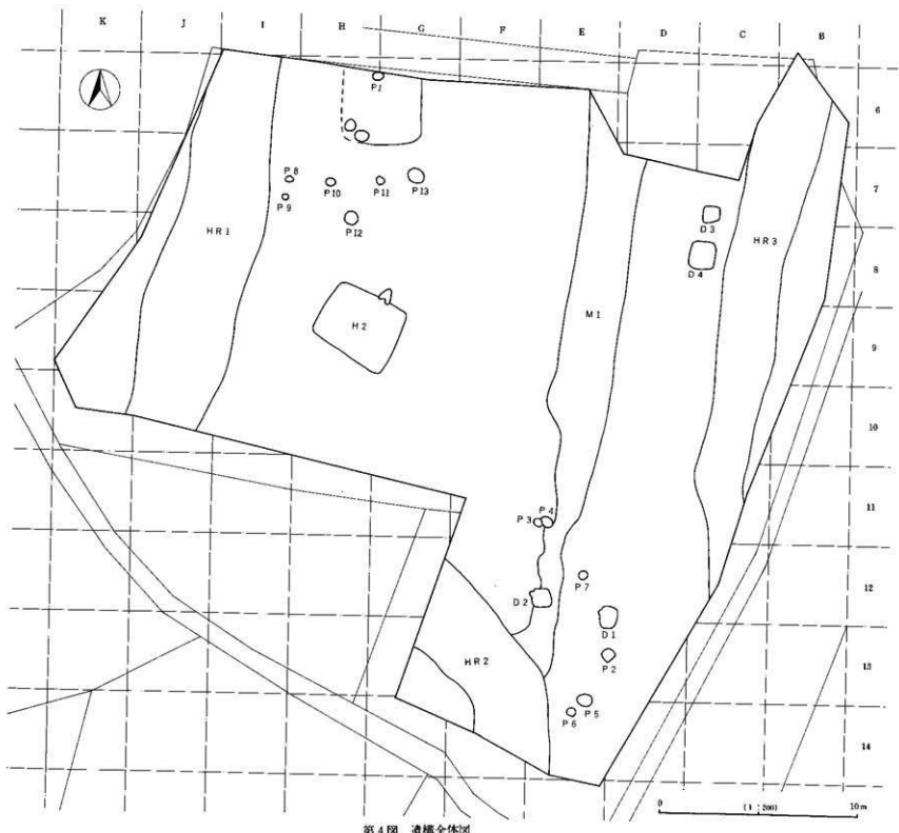
出土遺物は、弥生土器小片が数片出土したのみで、所産期については不明である。

2) H 2号住居址

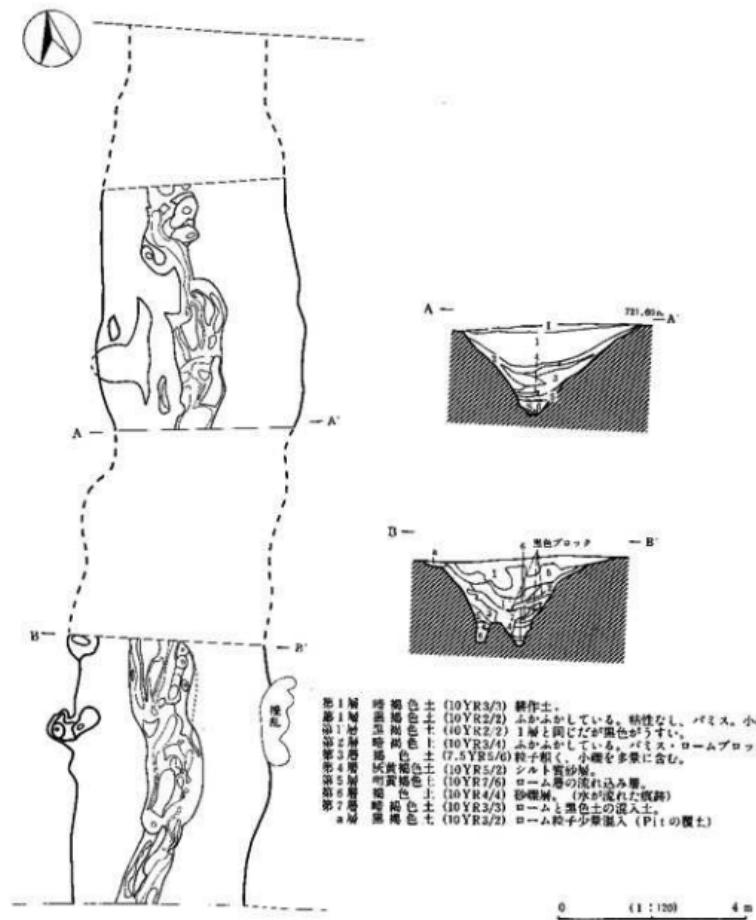
本住居址は、G・H-9・10グリッド内より検出された。北壁の向隅に擾乱があるものの全容は検出された。カマドは北壁中央やや東寄りに構築されており、破壊が著しい。ピットは2基存在したが、P₁のピットは掘り込みが浅く主柱穴らしく思われないが、左右対称の位置にあり、P₁・P₂とも上柱穴の可能性が高い。平面形態は南方に広がる隅丸台形を呈しており、規模等については第5表を参照されたい。

出土遺物は図示できたものに土師器6点がある。長胴甕は図示できなかったものの器内が厚く、いわゆる武藏甕ではないタイプのもので、环もいわゆる須恵器模倣环であり、古墳時代後期と考えられる。

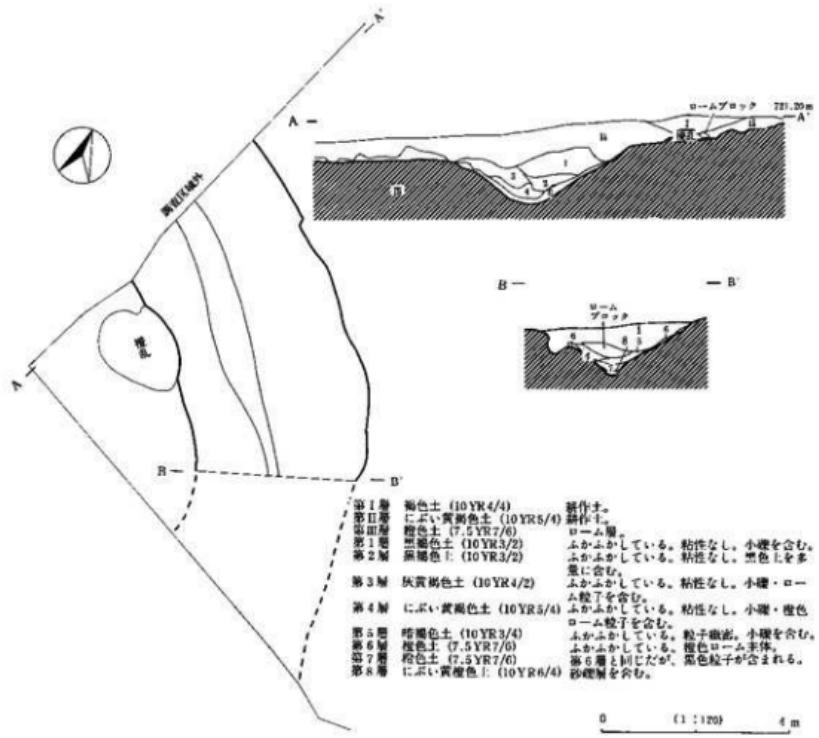




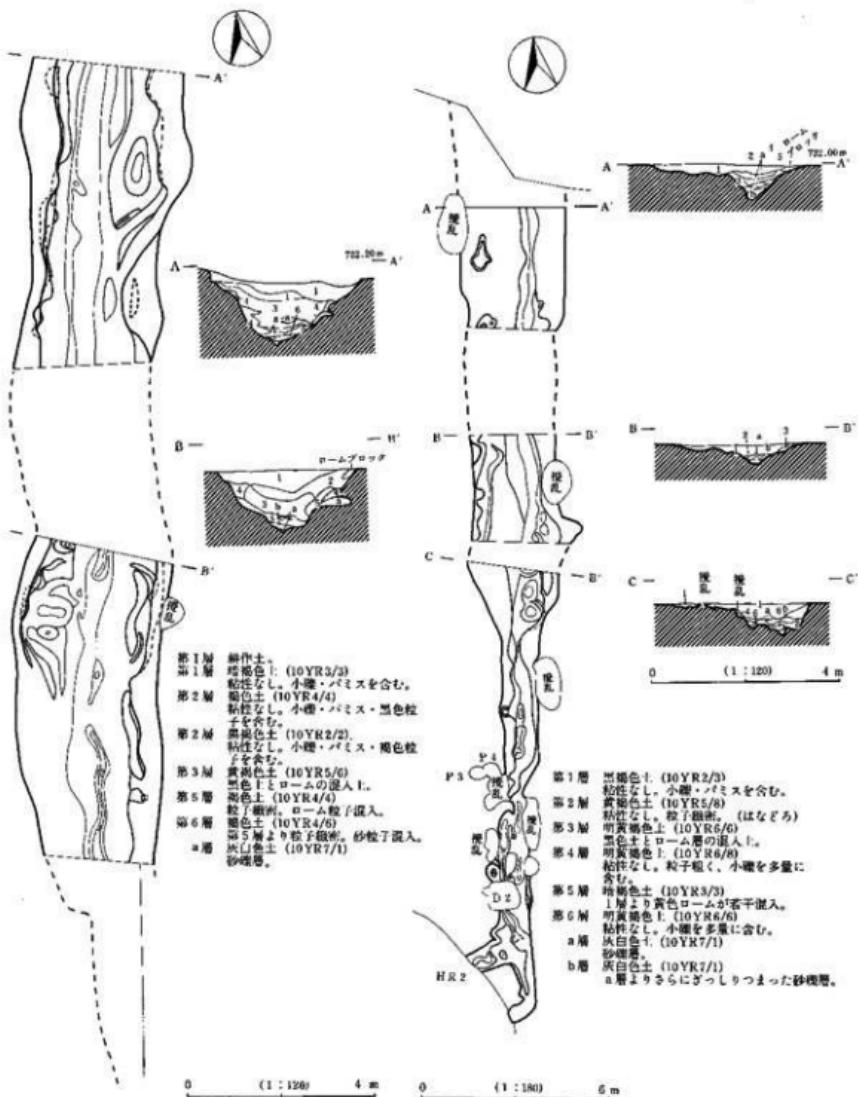
第4図 造構全体図

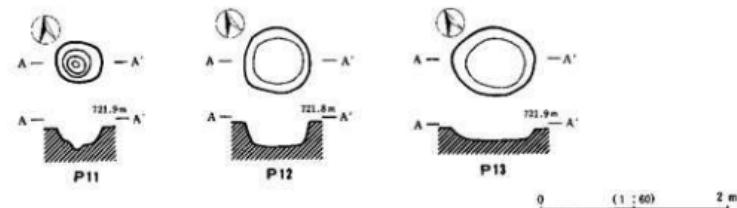
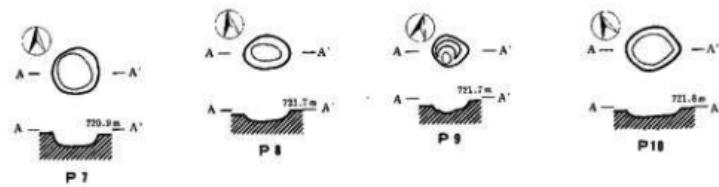
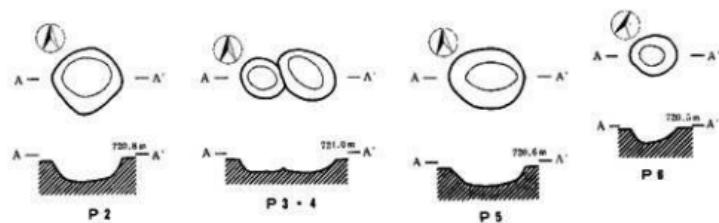
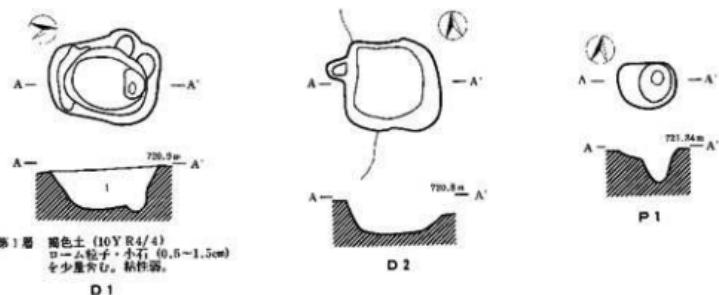


第5回 第1号掘址実測図

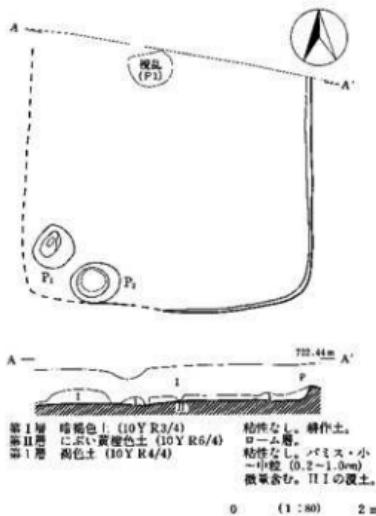


第6図 第2号堀址実測図





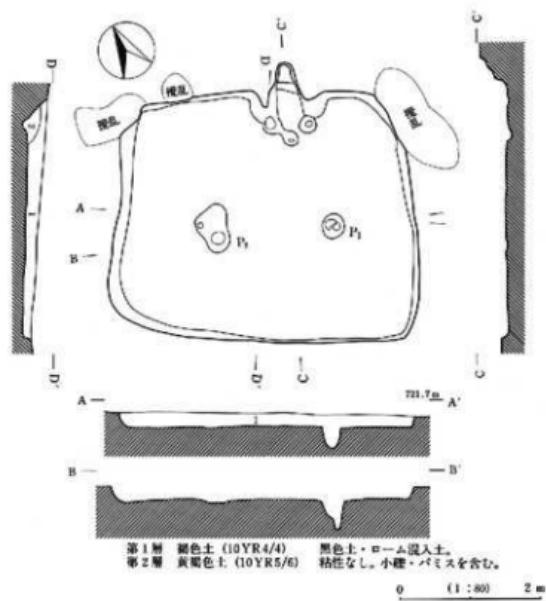
第9図 第1号・第2号上坑・ピット実測図



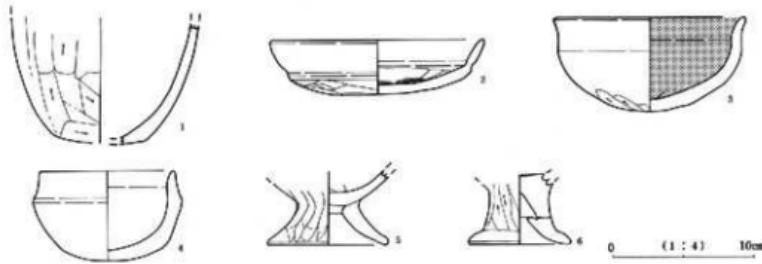
第10図 H 1号住居址実測図

第2表 H 2号住居址出土土器観察表

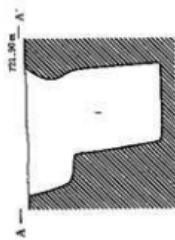
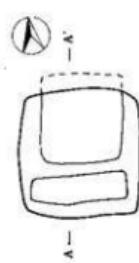
地図番号	等級	法 量 (cm)	底 形 及 び 部 分 の 特 徴	調 査	備 考
12-1	小 型 ?	底径 (6.5)	底部平底に近い丸底、底部中央付近が欠損しているが、底か もしれない。	内) ていねいなヘラケツリ。 外) 縫位のヘラケツリ。	脚下部～底部1/3残存。回転実測 カマド、I・N区。焼成良好 色調 内) 7.5YR5/4 (にぶい褐色) 外) 10YR7/4 (にぶい黄褐色) 断) 7.5YR8/4 (にぶい褐色)
12-2	环	口径 15.2 底径 15.2 器高 3.4	丸底、いわゆる須 恵器模様嵌合。	内) 口縁部付近ヨコナデ、 底面付近ていねいな ヘラミガキ。 外) 口縁部付近ヨコナデ、 縫より下部はヘラケ ツリ。	ほぼ完形。完全実測。No.14・B・N区。 色調 2.5YR6/6 (褐色) 焼成良好
12-3	塊	口径 (13.5) 底径 6.7	口縁部に縫を有す る。 丸底。	内) 黒色処理。 外) 口縁部付近ヨコナデ、 底面ヘラツリ。	No.9 約1/3残存。回転実測。 焼成不良。 色調 内) 10YR1/4 (褐色) 外) 断) 7.5YR7/4 (にぶい褐色)
12-4	塊	口径 (9.6) 底径 6.3	平底に近い丸底、 底部、縫をもつて内傾する。	内) 口縁部付近ヨコナデ、 外) 口縁部付近ヨコナデ、 底面ヘラツリ。	口～底部1/2残存。回転実測。 焼成普通。I・N区。 色調 内) 10YR7/4 (にぶい黄褐色) 外) 10YR8/3 (浅黄褐色)
12-5	台付塊	脚着地径 8.5	底面に脚部をそ のままはりつけ。	内) 縫位のヨコナデ、脚部 付近ヨコナデ。 外) 縫位のヘラケツリ。	脚部完形。回転実測。 焼成良好。No.6 色調 内・外) 5YR7/4 (にぶい褐色) 断) 5Y7/1 (灰白色)
12-6	高环	脚着地径 (7.3)	杯部から脚部に杆 状に製作し、その 下部に外反して脚 下部を貼りつけ である。	内) 杯部内面、黒色研磨、 脚部内面ヨコナデ。 外) 脚部柱状縫位のヘ ラケツリ。その下部 ヨコナデ。	I区 約1/2残存。回転実測。 焼成良好 色調 内) 10YR1.7/1 (黒色) 外) 7.5YR6/4 (にぶい黄褐色) 断) 10YR6/4 (")



第11図 H 2号住居址実測図



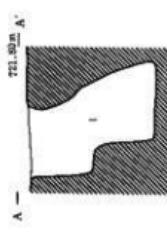
第12図 H 2号住居址出土土器実測図



第1層 棕色土 (2.5YR 6/8) ローム層の埋上。

0 (1:60) 1m

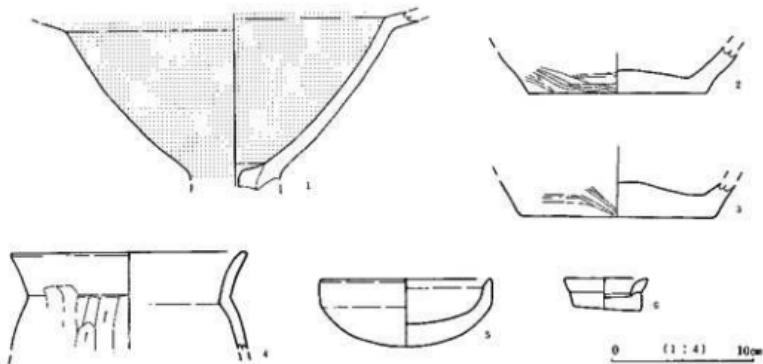
第13図 第3号土坑実測図



第1層 棕色土 (2.5YR 6/8) ローム層の埋上。

0 (1:60) 1m

第14図 第4号土坑実測図



第15図 混入土器実測図

第3表 泥人土器観察表

標識番号	器種	法量 (cm)	底形及び 側形の特徴	調査	備考
15-1	高环		环部は、逆「ハ」字状に大きく開き、口縁部付近で屈曲して外傾する平底。	内・外面とも赤色塗装。	H1出土。完全実面。 焼成良好。 色調 内・外) 7.5R4/8 (赤色) 断) 7.5R8/3 (浅黄褐色)
15-2	壺	底径 (12.4)		内) ハケメ調整がみられる。 外) 制下部ヘラミガキ。	H2往々5出土。回転実面。 焼成良好。 色調 内) 10Y8R/4 (浅黄褐色) 外) 7.5R7/4 (にじい褐色) 断) 10Y8R/3 (浅黄褐色)
15-3	壺	底径 (14.2)	平底	外) 制下部ヘラミガキ	H1出土 回転実面 焼成普通 色調 内) 10Y8R/4 (浅黄褐色) 外) 5R7/6 (褐色) 断) 10Y8R/4 (にじい褐色)

15-4	甕	口径 (16.6)	脇が張らない。式 厳密的調査だが、 器内は厚い。	内) 口縁部付近ロクロヨ コナデ。 外) 口縁部付近ロクロヨ コナデ。胴部底位の ヘラケズリ。	堀1出土 回転実測 焼成良好 色調 内) 7.5YR6/6 (橙色) 外) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色) 断) 2.5YR5/6 (明赤褐色)
15-5	杯	口径 (12.2) 底径 4.7	丸底。口辺上部に 被をもつ。	内) ていねいなヘラミガ キ。 外) 器面が焼けているが、 ヘラケズリと思われ る。	堀1出土 回転実測 焼成良好 色調 内) 10YR7/4 (にぶい黄橙色) 外) 10YR7/3 (") 断) 10YR7/2 (灰白色)
15-6	手把	口径 5.9 底径 4.7 高さ 2~2.3	2段の粘土板によ り成形されている。	内・外側とも指頭による 調整。	堀3出土 完形? 完全実測 焼成良好 色調 内・外) 2.5YR8/4 (淡黄色)

第4表 土坑・ピット一覧表

遺構	検出位置	平面プラン (cm)			長軸方向	断面形	深さ (cm)	備 考
		長径	短径	形態				
D 1	D・E-12・13	117	92		N-46°-W		46.5	
D 2	E-12	126	97		N-70°-W	逆台形	39.0	
P 1	G・H-6	65	52		N-67.5°-W		33.5	H 1号住内
P 2	D・E-13	74	70		N-89°-W	逆台形	25.5	
P 3	E-11	66	51	椭円形	N-61°-W	皿状	16.0	P 6と接する
P 4	E-11	50	41	椭円形	N-72°-W	逆台形	17.0	P 5と接する
P 5	E-13・14	80	63	椭円形	N-87°-W	逆台形	22.0	
P 6	E-14	50	42	不整椭円形	N-71°-E	U字形	15.5	
P 7	E-12	48	48	円形	N-90°	逆台形	16.0	
P 8	I-7	48	36	椭円形	N-80°-W	皿状	11.0	
P 9	I-7	38	32	不整円形	N-73°-E		13.0	
P 10	H-7	58	45	不整椭円形	N-68°-W	皿状	9.0	
P 11	G-7	48	42		N-85°-W		24.0	
P 12	H-7・8	70	68	円形	N-22°-E	逆台形	28.0	
P 13	G-7	88	72	椭円形	N-67°-W	逆台形	17.0	

第5表 住居址一覧表

遺構	検出位置	平面プラン及び規模	壁残高 (cm)	付 屬 施 設	時 期	備 考
H 1	G・H-6・7	南壁長 (380cm)	0~10	主柱穴 1 入口施設開通柱 穴 1	弥生時代?	北側 調査区外 西側 耕作土により 削平されている。
H 2	G・H-9・10	東壁長324cm 西壁長266cm 南壁長394cm 北壁長324cm 東西長396cm 南北長336cmの 床面積12.7m ² 主軸方向N-26°-E	9~33	北壁中央東寄り にカマド ピット 2	古墳時代後期	

第Ⅲ章 調査のまとめ

今回、石並城跡において検出された遺構・遺物の詳細は前述した。検出された遺構は、掘址3条、溝状遺構1条、土坑4基、ピット13基、住居址2棟等であり、出土遺物は、弥生土器、土師器、近世・近代陶磁器である。

今回の調査は石並城跡の外郭部分にあたる約1000m弱の発掘調査であったが、地上（現地表面）ではうかがい知ることのできなかつた掘址が幾重にも存在することが解明され、また、城跡として利用される以前も弥生時代～古墳時代にかけて集落址として、生活居住地域であったことが判明したのは大きな成果であった。

今後の地域研究の基礎資料として大変価値のある資料となろう。



1 石並城跡周辺航空写真



2 石並城跡周辺航空写真



3 石並城跡周辺航空写真



1 石並城跡造構全景（南方より）



2 石並城跡造構全景（南方より）



3 石並城跡遺構全景（南方より）



4 石並城跡遺構全景（南方より）



1 第1号烟址（南方より）



2 第1号烟址（北方より）



3 第1号烟址セクション（北方より）



1 第2号墳址（東方より）



2 第2号墳址セクション（東方より）

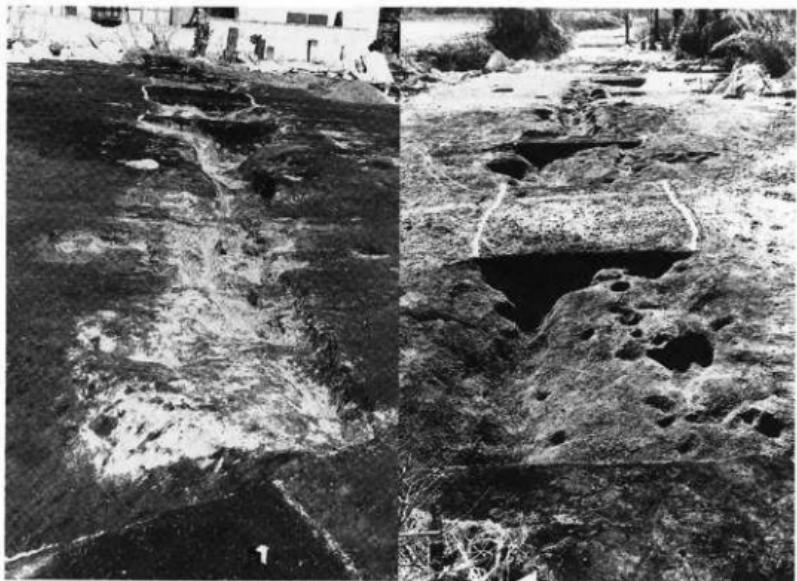


1 第3号墳址（南方より）

2 第3号墳址（北方より）



3 第3号墳址セクション（南方より）



1 第1号溝状遺構（南方より）

2 第1号溝状遺構（北方より）



3 H1号住居址（南方より）



1 H 2号住居址（南方より）



2 H 2号住居址（北方より）



1 H 2号住居址出土土器



2 H 2号住居址出土土器



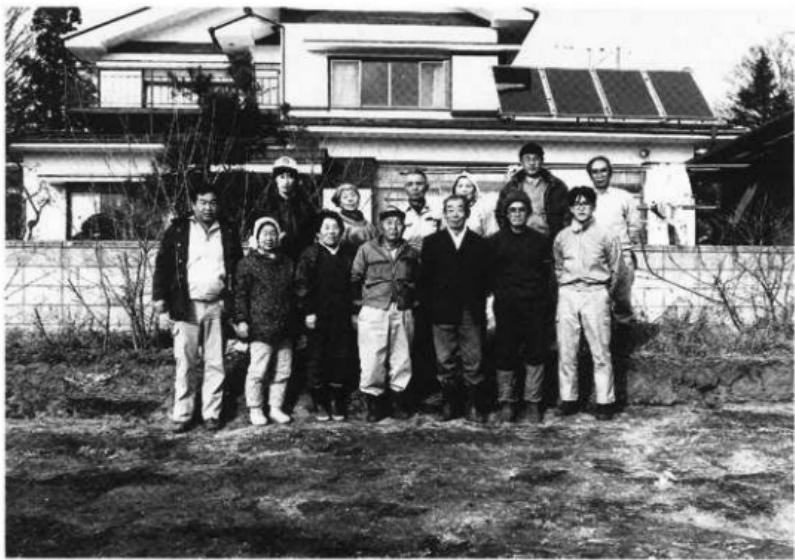
3 H 2号住居址出土土器



4 混入土器



5 混入土器



6 調査團

長野県佐久市
佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集

石並城跡

平成4年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
印 刷 株式会社 樂〈いちい〉
